

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇全国学力・学習状況調査の国語、算数、理科のすべての領域で全国平均を上回っている。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問調査で、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?と「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできる」に肯定的な回答が、全国平均を上回っていた。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問調査で、「学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に肯定的な回答が全国平均を上回っていた。</p>
	<p>◇全国平均に到達していない児童についても目を向けていき、支援していく必要がある。</p> <p>◇主体的、対話的で深い学びを目指し授業改善を図ってきたことで、自己の見方・考え方が広がってきた。学級会で話し合いの場をもつことで、学校生活のことを自己決定する場がつくられた。一方で本校の学校アンケートでは「自分の考えを進んで伝えたり、話し合っ決めてたりする活動に意欲的にかかわろうとしていますか」に、否定的な回答の割合が高かった。伝え合う授業の充実や子どもたちの自己決定がある授業を目指し、日常の授業改善を図っていく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇全国学力・学習状況調査の質問調査で、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答が全国平均を上回っている。学校アンケートで「自分にはよいところがある」に肯定的に回答した割合が、昨年度や、一昨年度から比べると増加傾向にある。</p> <p>◇子どもたちの良さを教職員が進んで認め、子どもたち同士が認め合う場づくりをしてきた。また、ふれあい活動や委員会活動など相手のことを考えて創る活動では、相手が喜ぶ姿が自分たちの満足感につながるよう支援してきた。このような支援をより一層行い、他者を認める目と心を耕していきたい。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自己の変容を自覚し、次の学びや生活に学びを生かそうとする資質・能力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 国語科の「話すこと・聞くこと」に焦点化し、授業研究を進める。</p> <p>(2) 単元内に、「学びたい」意欲をもつ場や「何をどのように伝えたいかを自己決定」できる場を意図的に位置付ける。</p> <p>(3) 日常から聴き合う関係づくりをし、対話を通して相互承認の感度を高める。</p> <p>(4) 単元内に、<u>自身の変容を自覚できる振り返りの場</u>を位置付け、学びの深まりをより実感できるように教師が関わる。</p>	<p>(1) 児童が主体となり、<u>自分たちで活動を創り出したり、参加したりできるような委員会活動とクラブ活動の実施。</u></p> <p>(2) パートナー校との連携を図りながら、小中の児童・生徒が交流できるような場を設定する。</p> <p>(3) グループで協同的に活動する力を育てるだけでなく、<u>互いの良さを認め合う態度を育む異学年交流活動の実施。</u></p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
	<p>◇本校では、保護者の了承と協力を得て、スクールタクトを継続して契約している。子どもの記録が見える化しやすい特徴があり、1単位時間の授業の中だけでなく、学期や年度を経てどのように変容したかを見取ることができる。また、各教員が作成したシートや資料を参照したり共有したりすることが容易であり、学年などの横のつながりや、次の年度に引き継ぐ縦のつながりを生む効果を得ることができている。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

